

地域で育てる

子どもたちのさまざまな
居場所を訪ねます

ふくやま子育て応援センター



松島のり子 (大学教員)

〔所在地〕 広島県福山市西町 1-1-1
(エフピコ Rim 6 階)

〔連絡先〕 084-932-7284

子どもを育てる保護者にとって、子育てに関して頼りになる存在、応援してくれる存在がいることは、きつと心強いに違いない。そうした役割を担うのは、身近な家族かもしれないし、友人や近所の方かもしれない。今は、地域社会という場合も少なくないだろう。というより、地域社会にこそその役割が期待されているのが現状と言えるかもしれない。

今回は、広島県福山市の「ふくやま子育て応援センター」・愛称『キッズコム』（以下「応援センター」）を訪ねた。山本裕美先生（子育て応援センター担当課長）と篠原有美先生（同次長）はじめ、スタッフの皆さんが温かく迎えてくださった（肩書は訪問時のもの）。

ふくやま子育て応援センターの始まり

新幹線「のぞみ」も停車するJR山陽本線福山駅から徒歩五分ほどの所に、「エフピコ Rim（リム・ふくやま）」というショッピング

訪問者：松島のり子（お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系助教）
佐藤有子（福山市立大学教育支援センター特任教員）

ビルがあり、応援センターはその六階に設けられている。

応援センターは、一九九八年四月から始まった「ファミリー・サポート・センター事業」と、それ以前より実施していた休日保育を統合・拡大する形で、二〇〇〇年五月に誕生した。当初は、休日保育を行っていた保育所の建物を活用し、その後二〇〇八年から、市中心部の生涯学習プラザ「まなびの館ローズコム」への移転を経て、二〇一四年に現在地へと移った。併せて、この年の九月に、ふくやま子育て応援センター「ことばの相談室」を開設し、以来、市内の公立保育所・幼稚園に計八か所設けられていることばの相談室の拠点として、役割を担っている。



月曜日（祝日の場合は翌火曜日）以外は、毎日十時から十八時まで開いている。買い物や散歩のついでに立ち寄るのもよし、駅から徒歩圏内、駐車場も完備され、電車でも自家用車でもアクセスしやすい。一日平均四十〜五十組の親子が訪れており、土日には父親も一緒に家族で来る人が多いという。私たちが訪ねたときには、プレイルームで、五組ほどの親子が、ゆったりとした、思い思いの時間を過ごしていた。

子育ての「伴走者」として

「子育て支援」という言葉は、しばしば目や耳にする。国や自治体、民間組織などさまざまな主体によって「子育て支援」策や事業が展開されている。応援センターもそうした流れの中で誕生した。しかし「子育て応援センター」という名称には、福山市の、子育てに対する思いが込められていた。

山本先生によると、「応援」という言葉は、保護者の方々と一緒に子育てをする、「伴走者」である、ということにこだわって用いられているそうである。「支援」というと、支援を行う側と受ける側という関係性になりがちなどころ、「応援」とすることで、子どもの育ちを願う同じ方向を向いていく姿勢が表われるように思う。伴走者として子育てを応援する、そうあり続けたい、という思いは、応援センターの立ち上げ当初の、市としての意向も背景となっており、携わるスタッフの総意であったという。この思いは代々受け継がれ、現在もスタッフによる環境づくりにおいて体现されていた。

〓子育てを楽しみましょう!〓

応援センターは、開館中いつでも遊びに来てよい場所である。授乳室や子ども用トイレ、相談室もある。プレイルームは、ゆとりのあ

るスペースに、穏やかな色合いの照明の下、木製の家具や遊具が置かれていた。子どもたちが遊ぶ姿を思い浮かべながら手作りされたおもちゃもあり、壁面や天井にはガーランド（飾りをひも状に連ねた装飾）が飾られていた。保護者がふと目に見える位置に貼られた、遊びや子育て関連情報への掲示は、子育てという豊かな営みの楽しみに気づけるようなメッセージが伝わってくるようであった。

これらの環境をつくり、笑顔で迎えてくれる、子育ての専門家であるスタッフがいます。一步入ると、ほつと心を落ち着けて過ごせる空間が広がる。保護者は子どもと向きあい、保護者同士で、また、スタッフと話をするこ



ともできる。子育ての情報を伝える場としても機能している。訪れる人、集う人がさまざまに「出会う」「つながる」場となっている。

さらに、応援センターでは、「あそびのひろば」「子育て講座」「夢みるパパとママの会」「男性育児子育て講座」といった、子育て家庭を応援するさまざまな講座も定期的に行っている。中でも「夢みるパパとママの会」は人気であるという。市の助産師、歯科衛生士、保健師が講師となり、お産や沐浴、食のことを学び、家族で赤ちゃんを迎える準備ができる。これらの講座も、訪れた保護者の声や電



話を通して悩みを聴く中で、ニーズをすくい、内容が育ってきたという。子育てをする保護者の学びたい思いにも応える役割を担っている。

基本は「人」

子育てをしていると、悩むことや言葉にしがたい思いを抱えることもある。応援センターでも、プレイルームでの何気ない会話の中で、あるいは、幾度か回を重ねて応援センターを訪れる中で、保護者が本当に困っていることや悩みを打ち明けることがあるという。同じ場で時間を共にする間に関係性が築かれ、しだいに安心感がもたらされるのである。「基本は「人」」。『対「人」』のかかわりを、先輩の時代から脈々と引き継いで大事にしてきた」と、山本先生は話されていた。

応援センターでは、遊ぶことも学ぶことも、相談することもできる。人と人とのかわりの中に優しい時間が流れ、子どもはのびのびと遊び、保護者は子育てへの原動力を得る。そして、親子の笑顔へとつながっていく。

(二〇一七年三月訪問)